

【資料】

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 1

単元名	わがまちの江戸時代の産業～その時、草津の歴史は動いた！～	授業者	佐々木英三
時代	近世（江戸）	執筆者	佐々木英三
出典	小原友行編著「『思考力・判断力・表現力』をつける社会科授業デザイン 中学校編」明治図書, 2009年, pp. 59-66	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり	「『大阪は天下の台所』で経済の中心だった。」既習事項と、草津のカキは大阪でのカキ船営業の「独占権」を得たことをつなげることで、大阪で独占販売できれば、草津のカキが広く知れ渡ることを類推させている。
	<input type="checkbox"/> なし	
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象（結果）	江戸時代、草津が「カキ」の産地として有名になったこと	
中核となる問い	なぜ、草津のカキは江戸時代それほど有名になったのだろうか。	
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因、背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は、どのように起きたのか」「～は、どんなこと（様子）だったのか」手段・方法、過程、構造、相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果、どうなったのか」結果、影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像、意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら、どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	藩を説得して株仲間を作り、カキ船を利用して大阪（ママ）でカキの販売を行った。大阪の大火をきっかけに、草津のカキ舟（ママ）は大阪での営業の独占権を与えられた。さらに無株者らが西日本各地に販路を広めたことから草津のカキが全国的に有名になった。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	・カキ師による藩への説得により株仲間ができ、独占権を得た。 ・300年前から産地直売をしていた。 ・大阪で販売できない無株者らが、中国・四国・九州地方に販路を広げた
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

草津がカキ産地として有名になった要因を資料から複数抜き出させ、説明させようとしている。ただし、要因のうち無株者については生徒から意見が出ていない。既習事項と関連付けて、大阪での販売が有利であるということを類推させているものの、それを確認する学習には至らず、抽出された要因同士の関連性については問われていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 2

単元名	開国前後の幕府の力を判定しよう	授業者	柳沢 淳
時代	近世（江戸）	執筆者	柳沢 淳
出典	小原友行編著「『思考力・判断力・表現力』をつける社会科授業デザイン 中学校編」明治図書, 2009年, pp. 67-77	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 幕府の失策について, 綱吉の政治を想起した学習者がいた。
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象（結果）	大塩平八郎の乱や天保の改革, 日米和親条約や日米修好通商条約の締結, 薩英戦争や四国連合艦隊による下関砲台の占領, 薩長同盟の締結
中核となる問い	政治権力の決定的転換点はいつで, それはなぜだろう。（幕府の政治はいつ売り切れたのか）
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと（様子）だったのか」 手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果, どうなったのか」 結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「自分であったら, どうするのか」 意志決定を求める問い。
習得される知識	幕末の国内政治の動きと開国から江戸幕府滅亡までの推移
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数 ・ 飢饉への無策 ・ 不平等条約の締結 ・ 物価の不安定 ・ 藩の勝手な攘夷運動 ・ 外国を追い払うことができない ・ 薩長同盟の締結, 第二次長州征討の失敗
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 複数の要因からどの要因が決定的な転換点になったのかを問うている。しかし, その答えの根拠とする事実をどのように導き出しているのかは不明である。

考察

江戸幕府が行き詰まり滅亡に至った要因を教科書や資料集などから探し出し, 読み取ることで, 幕藩体制が「売り切れ」た時期を推察, 理解させようとしている。指導目標には「幕府の国内政治の動きと国内外の出来事と関連付けて考える」とある。実践では他者の考えた要因の妥当性について検討しているものの要因同士の関連付けは見い出せない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 3

単元名	古代国家のあゆみと東アジア	授業者	松岡美香
時代	古代（奈良）	執筆者	松岡美香
出典	小原友行編著「『思考力・判断力・表現力』をつける社会科授業デザイン 中学校編」明治図書, 2009年, pp. 78-87	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象（結果）	大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ, 天皇・貴族の政治が展開された。
中核となる問い	奈良時代の人々の暮らしはどのようなものであったのだろうか（推定）。
問いの性質	<input type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと（様子）だったのか」 手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果, どうなったのか」 結果, 影響を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像, 意義を求める問い。
<input type="checkbox"/> 「自分であったら, どうするのか」 意志決定を求める問い。	
習得される知識	律令国家は農民の苦勞によって支えられている。
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数
	<input type="checkbox"/> 複数
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり
	<input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり
	<input checked="" type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり
	<input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

奈良時代の農民に焦点を当て, 戸籍, 班田収受法と租, 庸とその他の兵役, 調と木簡, 貴族と農民の衣食住, 山上憶良と防人の歌の内容を調べ, 税の負担が重く暮らしは楽でなかったこと, 公地公民制の崩壊の崩壊し荘園は拡大したことを理解させようとしている。人々の生活を資料から抽出し, グループ学習による意見交流により, 律令国家が人々の生活の犠牲の上に成り立っているという結果を導き出す時系列連鎖の学習となっている。ただし目標として掲げている「国家の仕組みが整えられ, 天皇・貴族の政治が展開された。」ことと, 学習者に理解させたいと考えていた「律令国家は農民の苦勞によって支えられている」との間にズレが生じている。農民＝苦勞した存在であることを恣意的に取りあげようとした授業者の意図がうかがえる。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 4

単元名	連合国軍の占領と諸改革	授業者	上園悦史
時代	現代（昭和）	執筆者	上園悦史
出典	小原友行編著「『思考力・判断力・表現力』をつける社会科授業デザイン 中学校編」明治図書, 2009年, pp. 88-96	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり	日本国憲法の成立過程（松本私案, 帝国議会による生存権の追加など）について習得した知識をもとに憲法にはどのような問題があるのかを考えさせている。
	<input type="checkbox"/> なし	
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象（結果）	日本国憲法の成立過程の中で生じた問題（推定）。	
中核となる問い	日本国憲法の成立過程を踏まえ, 日本国憲法をめぐってどのような問題があるのだろうか。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと（様子）だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	改憲, 押しつけ, 第9条と自衛隊といった問題についての自分の考え。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	
	<input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

習得した憲法の成立過程をもとに, 改憲, 押しつけ, 第9条と自衛隊といった問題をどのように考えるのかを論述, 発表させるとしている。民主化の過程についての理解, 現代におけるわが国の役割について考えさせることを指導目標に掲げている。しかし, 授業では「日本国憲法の問題点」について考えさせることに矮小化しているため, なぜこうした憲法の成立に至ったかなど, 関係は明確に問われていない。憲法の条文についてどう思うのか, 今後は憲法をどうすべきであるかを答えさせるにとどまっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 5

単元名	第一次世界大戦とアジア・日本 国際協調の時代	授業者	悦内誠二
時代	近代（大正）	執筆者	今野日出晴
出典	日本社会科教育学会編『授業力の開発 中学校・高等学校編』明治図書，2008年，pp.110-125	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項，既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり	日英同盟にのって第一次世界大戦に参戦したこと。
	<input type="checkbox"/> なし	
既習事項，既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識，概念

学習対象となる歴史事象（結果）	世界各国が軍縮による国際協調の時代をとったこと	
中核となる問い	戦後，日英同盟を破棄したのはなぜだろう。	
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因，背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は，どのように起きたのか」「～は，どんなこと（様子）だったのか」手段・方法，過程，構造，相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果，どうなったのか」結果，影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像，意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら，どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	国内的に財政破綻の危険性があり，軍備縮小のためには多国間協議が必要であった。	
抽出される要因	<input checked="" type="checkbox"/> 単数	対外的には軍縮のためには多国間協議が必要であったから。国内では財政破綻の危険性があり，軍縮に賛成せざるを得なかったから。
	<input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	時系列の検討にとどまっている。
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

筆者は学習内容の構造化によって，歴史事象の相互の関連性や因果関係を有機的にまとめることの有効性を主張している。しかし，中心発問から要因を導き出す過程は一見複線的なようで，「ワシントン体制による発言力の低下→国内の財政事情の悪化→軍縮のためには多国間協議が必要」と言った具合に，実は単線的で時系列連鎖の構造であり，関連付けているとしているのは用語や人名などの記述的知識のつながりである。したがって複線的に見た連関は見いだせない構成となっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワークNo. 6

単元名	明治維新	授業者	生田目靖志
時代	近代（幕末～明治）	執筆者	奥藤恭彌
出典	社会科教育研究センター編『中学校の探究学習』明治図書, 1980年, pp. 27-57	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象（結果）	①徴兵制度の施行は、中央集権・富国強兵策の一環としての意義と役割を十分に果たした。②近代的中央集権国家形成の中で、士族たちは、徴兵制度や幾多の急激な変革に次第に適応性を失い、遂には西南戦争を頂点とする士族の反乱を引き起こした。同時に、一般民衆にも、多くの犠牲と混乱を与えた。
中核となる問い	なぜ、士族は反乱を起こしたのか。
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」要因、背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は、どのように起きたのか」「～は、どんなこと（様子）だったのか」手段・方法、過程、構造、相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果、どうなったのか」結果、影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像、意義を求める問い。
<input type="checkbox"/> 「自分であったら、どうするのか」意志決定を求める問い。	
習得される知識	明治維新が政府や国民の努力によって、比較的短期間に実現していった。
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 ①政府の命令で動く国の軍隊ができた。金のかからない軍隊ができた。近代的な様式軍隊ができた。②士族の特権が無くなった。士族の生活の困窮と不満があった。ごまかしの四民平等であったから。 <input checked="" type="checkbox"/> 複数
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input checked="" type="checkbox"/> あり 士族の特権剥奪（抽出される要因の②）が、西南戦争を招き、中央集権国家へと結びついた。 <input type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

廃藩置県後の士族の様子から、士族の困窮が西南戦争など士族の反乱の要因となったこと、それを徴兵制軍隊が破ったことで、近代的中央集権国家が形成されたことが流れとして理解することがめざされている。ただし、「いくつかの原因を洗い出す。次にその諸原因の中で、どれが基本的でどれが従属的であるかなどを決定する」ことで歴史的判断力を育成すると謳ってはいるものの（p. 28）、学習者自身で関連づけを図り検討している場面は見受けられない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 7

単元名	明治維新－北海道開拓史による北辺の開拓－	授業者	
時代	近代（明治）	執筆者	阿部皎・工藤一廣・沢田憲一
出典	小俣盛男編著『中学校社会科授業研究 2 郷土教材を活用した歴史的分野の授業』pp. 40-48	形式	指導案

分析フレームワーク1 授業で習得される知識, 概念

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象（結果）	北海道開拓使時代の琴似と手稲の開拓の歩み（開拓に尽くした人々の努力）	
中核となる問い	手稲の開拓の歩みにおいて、どこで、どういう人たちが、どのような苦勞と生活をしたのか。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～は、どのように起きたのか」「～は、どんなこと（様子）だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。	
習得される知識	北海道開拓使の殖産興業政策のもとで, 琴似や手稲の開拓に尽くした人々の努力を郷土教材を通して理解させる。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	
	<input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

北海道開拓には開拓使によるものと民間によるものの2種類あることは理解できる。工夫や努力を具体的な資料（地図や写真, 記念碑, 絵や新聞）から捉えさせようと謳っているものの, 実際の工夫や努力は文献資料（北海道の開拓記念館の展示解説書）を読み取る活動にとどまっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 8

単元名	室町幕府の政治と外交	授業者	
時代	中世（室町時代）	執筆者	遠藤文雄
出典	星村平和編著『中学校社会科授業研究 5 歴史教科書を活用したわかる授業の創造』pp.96-103	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項，既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり	前時までに学習した応仁の乱を要因の一つとして取りあげている。
	<input type="checkbox"/> なし	
既習事項，既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識，概念

学習対象となる歴史事象（結果）	加賀，吉崎で大規模な一向一揆が起きた	
中核となる問い	なぜ，加賀，吉崎で大規模な一向一揆が起きたのだろう。	
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因，背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は，どのように起きたのか」「～は，どんなこと（様子）だったのか」手段・方法，過程，構造，相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果，どうなったのか」結果，影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像，意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら，どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	加賀・越前において農業生産の向上によって村に自治が進んでいた中で，蓮如が吉崎に道場を開いたことをきっかけに，近隣の武士・農民が宗教的団結を強め，領主に反抗して大規模な一向一揆を起こした。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	農業技術の進歩にともなう農業生産の向上により，村の自治が進み農民が力を強めていた。蓮如が吉崎に道場を開き布教をおこなったため，近隣の武士・農民が宗教的団結を強めた。応仁の乱が起こるなど全国を強力に支配する政権がなかった。
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

既有知識を要因の一つとして取りあげており，応仁の乱の発生を想起させ，幕府の弱体化も一揆の要因であったと類推させるなど既有知識を発展させた学習内容となっている。ただし，既有知識は批判的に検討されているわけではなく，要因を導き出す過程（指導案では「事実調査・関係考察」としている）でも終末部で取りあげるなど，既有知識からの発展という位置づけではない。

要因を複数あげているものの，それぞれの要因は個別に説明され，要因間の相互作用の導出には至っていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 9

単元名	明治維新	授業者	
時代	近代（明治時代）	執筆者	河南一
出典	星村平和編著『中学校社会科授業研究 5 歴史教科書を活用したわかる授業の創造』pp. 132-139	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項，既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項，既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識，概念

学習対象となる歴史事象（結果）	開国により政治的・経済的植民地化の危機に直面したことからの対応として統一国家の形成と殖産興業がおこなわれ，その批判が士族，農民から発生した。	
中核となる問い		
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因，背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～は，どのように起きたのか」「～は，どんなこと（様子）だったのか」手段・方法，過程，構造，相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果，どうなったのか」結果，影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像，意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら，どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	薩摩藩の藩政改革の中心であった。公武合体運動を推進した。西郷と結んで薩長連合を結び，討幕派を形成した。王政復古の大号令などを画策した。天皇に非征韓を決定させた。台湾出兵・江華島事件を利用し，士族への不満をそらした。立憲政治への移行を宣言し，自由民権派を味方にした。地租改正事業を強行し，農民一揆の増加を招いた。秩禄処分を実施し，不平士族の反乱を鎮圧した後，地租を軽減し，農民一揆の批判をかわした。条約改正の交渉に失敗した。外遊により殖産興業の必要性に注目した。ビスマルクに会見し，ドイツの議会対策に注目するとともに，独裁的専制政治に感激した。これらのことに大久保がかかわっていた。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

大久保利通の行動をとおして明治維新の過程を相互に関連付け，構造的な理解をめざす学習展開となっている。それぞれの事件や政策決定に大久保が画策していたことはわかる。しかし，それぞれの事件や政策がどう関係しているのかについては言及がない。結果として，大久保が多く的事象に関わっていたことは理解できたとしても，事象間の関連は一面的な流れとして位置づけられるにとどまっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 10

単元名, 本時名	中世～天皇から武家の時代へ, 「新しい仏教と鎌倉文化」	授業者	
時代	中世(鎌倉)	執筆者	早川明男
出典	伊藤純郎編著『究極の中学校社会科－歴史編－』日本文教出版, 2013年pp. 70-75	形式	指導案(略案)

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	平安仏教との担い手や教義の違いを比較して特色を理解させようとしている。
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与(既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象(結果)	鎌倉仏教や鎌倉文化の特色や背景	
中核となる問い	武士や庶民が成長した鎌倉時代には, 平安時代とは違った新しい文化が生まれました。どのような文化だったのでしょうか。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと(様子)だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	武家政治の成立や民衆の成長を背景に新しい仏教や文化が生まれたことが理解できる。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	
	<input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

鎌倉仏教や鎌倉文化の特色や背景について, 多面的・多角的に考察することをねらいとしているものの, 習得される知識は「誰でもできる簡単でわかりやすい教え」, 「戦乱や飢饉による武士への不安」によって新しい仏教が広まったこと, 「力強さや素朴さ好まれた文化であったこと」などを羅列させるにとどまっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 11

単元名, 本時名	中世～天皇から武家の時代へ, 「建武の新政と南北朝の争乱」	授業者	
時代	中世(南北朝～室町)	執筆者	早川明男
出典	伊藤純郎編著『究極の中学校社会科－歴史編－』日本文教出版, 2013年pp. 76-81	形式	指導案(略案)

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 鎌倉時代と室町時代との守護のあり方の違いを比較させている。
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与(既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象(結果)	幕府勢力の拡大と在地の武士が権威との結びつきを希求が相まって, 守護大名の領国支配を基盤とした室町幕府が成立した。
中核となる問い	かつて天皇・政府が二つあって, それぞれが元号を決め, 使用していた時代がありました。どのような時代だったのでしょうか。そして社会はどう変わったのでしょうか。
問いの性質	<input type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと(様子)だったのか」 手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果, どうなったのか」 結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像, 意義を求める問い。 <input type="checkbox"/> 「自分であったら, どうするのか」 意志決定を求める問い。
習得される知識	政治が混乱し, 武士や農民の不安が高まった。争乱を通じて守護が次第に力を強め, 国を自分の領地のように支配するようになった。
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数 内乱が地方に広がった背景として, 幕府拡大の動き(上からのアプローチ)と在地の武士が有利に立とうと上位の権威に結び付こうとした(下からのアプローチ)ことへの理解をめざしている。
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

内乱の要因と守護大名の領国支配を基盤とした室町幕府の成立と変化が認識できるような授業構成を試みている。新しい政治の実現を思惑の違いから説明しようとしているものの, 複数の流れを示すにとどまり, 関連への説明は試みられていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 12

単元名, 本時名	中世～天皇から武家の時代へ, 「現代につながる室町文化」	授業者	
時代	中世(室町)	執筆者	西谷英規
出典	伊藤純郎編著『究極の中学校社会科－歴史編－』日本文教出版, 2013年pp. 82-87	形式	指導案(略案)

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	身の回りにあるものを想起させ, 室町時代のものかどうかを尋ねている。
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与(既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象(結果)	室町時代に起源をもつ「衣食住」の生活文化がある。	
中核となる問い	なぜ, これらのもの(室町時代の衣食住)が現代につながって使われているのか。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと(様子)だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	畳が各時代に連綿とつながっている。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

中核となる問いの答えは「この時代にたくさんのものが生まれたから」, 「時代に合うから」といったおよそ要因として考えられないものを想定している。しかも, 室町時代が起源ではない畳を事例として挙げていることなど, 授業者の不十分な教材研究が見られる。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 13

単元名, 本時名	近世～武家から町人の時代へ「近世の特色を表現しよう」	授業者	
時代	近世(江戸)	執筆者	関谷文宏
出典	伊藤純郎編著『究極の中学校社会科－歴史編－』日本文教出版, 2013年pp. 110-115	形式	指導案(略案)

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	江戸時代の既習事項を自分なりの言葉でまとめることを想定している。
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与(既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象(結果)	明示されていない。	
中核となる問い	近世の特色を図で示そう。(ただし, 発問として明示されていない。)	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと(様子)だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	近世の特色がわかる。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	
	<input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

時代の特徴をとらえることをねらいとしている。しかし, 授業の実際は江戸時代を「確立期」「安定期」「動揺期」「衰退期」の4点に分類し, それぞれで何があったかをまとめさせるにとどまっている。図解の内容は「自分なりに作成する」ものとして, 明示されないままとなっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 14

単元名, 本時名	近代～大衆の時代へ「近代の特色を表現しよう」	授業者	
時代	近代 (明治～大正)	執筆者	関谷文宏
出典	伊藤純郎編著『究極の中学校社会科－歴史編－』日本文教出版, 2013年pp. 138-143	形式	指導案 (略案)

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	既習事項を自分なりの言葉でまとめることを想定している。
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与 (既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象 (結果)	明示されていない。	
中核となる問い	近代の特色を発表しよう。(ただし, 発問として明示されていない。)	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと (様子) だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	近代の特色がわかる。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	
	<input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

とらえた時代の特色を発表させることをねらいとしている。しかし, 授業の実際は明治時代のできごとをランキングした上で, 発表させるにとどまっており, なぜ上位にランキングされたかの基準も示されていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 15

単元名	貴族の政治と文化の国風化	授業者	
時代	平安	執筆者	
出典	芳賀登編集代表『新訂中学校社会科指導事典 歴史』東京法令出版, 1992年p. 61	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与 (既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象 (結果)	先祖の業績があった。競争手を排斥した。皇室との婚姻関係を結び、外戚となった。多くの荘園が集中した。
中核となる問い	なぜ、藤原氏は天皇をしのぐような権力を持てるようになったのか。
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は、どのように起きたのか」「～は、どんなこと(様子)だったのか」 手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果, どうなったのか」 結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像, 意義を求める問い。 <input type="checkbox"/> 「自分であったら, どうするのか」 意志決定を求める問い。
習得される知識	皇室と姻戚関係で勢力を得た藤原氏が中心となり, 摂関政治がおこなわれるようになった。
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 藤原鎌足や不比等など先祖の業績があったから。競争相手の他氏を排斥したから。天皇の外戚となったから。藤原氏の元には多くの荘園が集中したから。 <input checked="" type="checkbox"/> 複数
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

摂関政治がおこなわれるようになった経緯を複数の要因から明らかにすることを目的とした授業である。小学校での既習事項である天皇の外戚となったこと以外に, 先祖の業績や荘園の集積など複数の要因抽出がなされているものの, 要因同士の関係性については検討されておらず, 総花的な抽出にとどまっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 16

単元名	近代市民社会の成立と産業革命	授業者	岩野清美
時代	近代（明治）	執筆者	岩野清美
出典	社会系教科教育学会編『社会系教科研究のアプローチ～授業実践のフロムとフォー～』学事出版，2010年，pp. 72-79	形式	学習指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項，既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
前時で学習した産業革命について想起させている。	
既習事項，既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識，概念

学習対象となる歴史事象（結果）	産業革命によって都市化や貨幣経済が浸透し，社会に影響がもたらされた。	
中核となる問い	産業革命のころの，人々の生活について考えよう。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」 要因，背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は，どのように起きたのか」「～は，どんなこと（様子）だったのか」 手段・方法，過程，構造，相互関係を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～が起きた結果，どうなったのか」 結果，影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像，意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら，どうするのか」 意志決定を求める問い。
習得される知識	蒸気機関の力で働く機械の発明により，工場での大量生産，農業生産の増加，大量輸送，情報網の発達が起こり，都市化が進んだ。その結果人々は賃金をもらって働くようになり，必要な物はお金で買う貨幣経済が浸透した。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	工場での大量生産，農業生産の増加，大量輸送，情報網の発達，都市化，賃金労働，貨幣経済の浸透により社会が変化した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

既有知識である，産業革命（蒸気機関の発達）に関する技術的側面をふまえ，産業革命後の生活の変化について多面的・多角的に考察させようとした授業である。実際の授業ではこれらの要因（の一部）を引き出すにとどまっており，要因同士の関係については言及がない。例えば，蒸気機関車による大量輸送がもたらされたことで工場の生産もより増大したなどの連関を導出することができれば，蒸気機関の発達が産業革命の進展に関する本質的要因と考えることもできよう。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 17

単元名	江戸時代の産業・流通の発達をとらえる授業 －「新潟町」発展の原因・背景を追究する活動を通して－	授業者	倉澤秀典
時代	江戸	執筆者	倉澤秀典
出典	全国社会科教育学会編『優れた社会科授業研究Ⅱ 中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』明治図書，2007年，pp. 50-58	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項，既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項，既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識，概念

学習対象となる歴史事象（結果）	新潟町が急速に発展した
中核となる問い	江戸時代に新潟町が急速に発展したのはなぜだろう。
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因，背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は，どのように起きたのか」「～は，どんなこと（様子）だったのか」 手段・方法，過程，構造，相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果，どうなったのか」 結果，影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像，意義を求める問い。 「自分であったら，どうするのか」 意志決定を求める問い。
習得される知識	西回り航路ができたことで流通がさかんになった。信濃川，阿賀野川を中心として河川交通網が整備された。新田開発がさかんであった越後平野では米が増産した。長岡藩の政策により湊が整備された。
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 大河の合流点にあり，舟運ネットワークがもたらされたから，米の積み出し港として機能した，長岡藩の保護を受けていたから。 <input checked="" type="checkbox"/> 複数
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input checked="" type="checkbox"/> あり 越後平野での事例をもとに，「江戸時代に全国的に産業や流通が発達したこと」，「産業や流通の発達にともない，各地に都市が形成された」ことを抽出し，概念化している。 <input type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

新潟町が発展した原因を多面的にとらえた上で，港町の発展に関する概念的知識の習得ができる展開となっている。ただし，要因同士を関連付けて説明する活動はなく，複数の要因から本質的な要因を抽出することはできない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 18

単元名	戦乱から天下統一へ	授業者	藤井英之
時代	室町～安土桃山	執筆者	藤井英之
出典	藤井英之, 宮崎正康編著『基礎基本+発展教材50選前編近世の日本』明治図書, 2006年, pp. 18-23	形式	学習展開例

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり	前時の学習である「室町幕府の滅亡」が戦国時代の終わりであることを想起させている。
	<input type="checkbox"/> なし	
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与 (既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり	前時の学習を批判的に検討するには至っていない。
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象 (結果)	戦国大名は近隣の大名と婚姻関係を結んだ。	
中核となる問い	信玄, 義元, 氏康はなんのためにここまでした (婚姻関係を結んだ) のでしょうか。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと (様子) だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	戦国大名はお互いに手を組んで力を合わせるため, 近隣の大名と婚姻関係を結んだ。味方を増やせば, 他の大名より圧倒的に強くなる。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	戦国大名が近隣の大名と婚姻関係を結んだ理由について, 複数の要件を学習者から引き出させている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

戦国大名の政略結婚の有効性について, 多面的に考察しようと試みている。複数の要因は抽出できているものの, 検証できる資料が用意されていない, それゆえ話し合われた要因の根拠がはっきりしない。本質的な要因の考察はせずに出し合ったことをまとめ, 感想記述で終わっている。本単元では, 第9時「耕地面積の増加が語るもの」などで多面的に原因抽出を試みている。しかし, いずれも, 要因の根拠は資料から抽出されることなく, 既有知識のあてはめ, あるいは想像したものであり, 要因同士の関係については考慮されていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 19

単元名	ヨーロッパの近代化とアジア植民地の拡大	授業者	藤井英之
時代	近代	執筆者	藤井英之
出典	藤井英之, 宮崎正康編著『基礎基本+発展教材50選後編近代の日本』明治図書, 2006年, pp. 37-42	形式	学習展開例

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり	前時で学習した「リンツオーシェイの姿勢」に対し, イギリス政府は何をしたのかを導入部分で考えさせている。
	<input type="checkbox"/> なし	
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与(既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり	清政府は, リンツオーシェイのやり方(作戦)に反したことを説明したことで, 既有知識どおりにならなかったことを知らせている。しかし, 既有知識の批判的検討まではなされていない。
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象(結果)	清はアヘン戦争でイギリスに敗れ, 欧米列強の侵略を許した。	
中核となる問い	清政府の役人や皇帝は, なぜイギリス軍が有利になることばかりしたのでしょうか。	
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと(様子)だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	役人や皇帝には, 清という国や国民を守ろうとする姿勢がみられない。その結果勝てる戦争に負けた。	
抽出される要因	<input checked="" type="checkbox"/> 単数	
	<input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

リンツオーシェイに指揮させていれば清がアヘン戦争に勝てたという想定のもと, 授業が構想, 実践されている。アヘン戦争の概略以外の資料は用意されず, メインクエスションの答えに関する発言内容は, 想像の域を超えないものとなっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 20

単元名	近代日本のあゆみと国際社会	授業者	藤井英之
時代	近代（明治時代）	執筆者	藤井英之
出典	藤井英之、宮崎正康編著『基礎基本+発展教材50選後編近代の日本』明治図書、2006年、pp.121-125	形式	学習展開例

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項、既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項、既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識、概念

学習対象となる歴史事象（結果）	日清戦争が勃発した。
中核となる問い	明治政府が、朝鮮の独立にこだわった理由は何だったと思いますか。
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因、背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は、どのように起きたのか」「～は、どんなこと（様子）だったのか」 手段・方法、過程、構造、相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果、どうなったのか」 結果、影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像、意義を求める問い。
<input type="checkbox"/> 「自分であったら、どうするのか」 意志決定を求める問い。	
習得される知識	朝鮮を侵略して支配するため。ロシアや列強の侵略から日本を守るため。
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数 朝鮮は清の属国だったから。今度は日本が朝鮮を属国にしようとしたから。ロシアを食い止めようとしたから。
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

「清の朝鮮進駐と対立した」ことが取り上げられていないため、問い「日本政府が朝鮮の独立にこだわった理由」と結果「日清戦争が勃発したこと」が因果関係になっていない。資料「日本の（日清戦争の）宣戦布告」の読み取りから、朝鮮が列強のアジア進出（日本進出）を食い止める楯となることが授業者だけではなく学習者にも前提として位置付けられていることから、朝鮮を日本の意のままにすることに肯定的なバイアスがかかり、多面的な要因が発見しにくい学習展開となっている。朝鮮半島の米生産の推移などの資料の提示により、実際には経済的な要因などが抽出できたと考えられる。

授業分析フレームワーク

分析フレームワークNo. 21

単元名	文明と環境	授業者	山本達也
時代	旧石器時代～古墳時代	執筆者	山本達也
出典	小原友行, 児玉康弘編著『「思考力・判断力・表現力」をつける中学歴史授業モデル』明治図書, 2011年, pp. 34-43	形式	学習指導案(略案)

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与(既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象(結果)	①縄文時代中期に火炎土器が作られた。 ②弥生時代に鉄器が使用され, 社会に影響を与えた。	
中核となる問い	①旧石器時代から縄文時代にかけての温暖化は, 社会になぜ, どのような影響をもたらしたのか。 ②縄文時代から弥生時代にかけての寒冷化はどのような影響をもたらしたのだろうか。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと(様子)だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
習得される知識	①東日本で食料が豊富で手に入りやすくなったので, 定住生活と人口の増加をもたらした。その結果各地域ごとに自分たちのまとまりと, 他の地域との違いを示すために, 派手で凝った火炎土器が作られた。 ②東日本中心の縄文時代の狩猟採集生活の条件が悪化し, 西日本で大陸から伝わった稲作の必要性が高まった。そのための道具として鉄器の需要が高まり, 貴重な鉄をめぐる争いが始まった。	
抽出される要因	<input checked="" type="checkbox"/> 単数 <input type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

火炎土器の発生や鉄器が普及した要因について, その時代との事象(人口増加や稲作の普及)から, 原因を導き出す学習となっている。複数の要因を抽出する活動は行われておらず, 時系列の説明にとどまっている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワークNo. 22

単元名	院政から武家政権の成立へー古在から中世への転換期をつかもうー	授業者	柳生大輔
時代	平安～鎌倉	執筆者	柳生大輔
出典	小原友行, 兎玉康弘編著『「思考力・表現力・判断力」をつける中学校歴史授業モデル』明治図書, 2011年, pp. 54-63	形式	学習指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	律令制度を取り上げ, その行き詰まりにより徴税が国司に任せられるようになったことを導き出している。
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与 (既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象 (結果)	院政期に荘園制が確立し, 武士が中央の政治に進出していった。	
中核となる問い	奈良時代の律令制度は平安時代に入り, どのように変化したか。武士はどのようにおこったのだろう。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと (様子) だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。	
習得される知識	院政期に公地公民制から荘園制という新しい土地制度が確立した。保元・平治の乱を経て武士が中央政治に進出していった。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数	2つの問いから荘園制の確立と武士の発生を抽出している。
要因同士の関係の検討	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	荘園制の確立と武士の発生を関連付け, 勢力の転換を説明しようとしている。
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

既有知識は, 次の時代の流れを説明するための「歴史の流れ」のおさらいに過ぎない位置付けとなっている。荘園制の確立と武士の発生との2点の流れで院政の進展を説明しようとしているものの, 「武士の力が頼られることによって, 武士政権が誕生した」という一面的な「歴史の流れの説明」による理解が求められている。

武士=軍事貴族としての位置付けが十分ではなく, 平清盛の昇官など貴族としての一面が説明できない。武士自身による治安の悪化というジレンマについても等閑視されている。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 23

単元名	近代国家が目指した国家とは？	授業者	兵藤清一
時代	明治	執筆者	兵藤清一
出典	小原友行, 児玉康弘編著『「思考力・表現力・判断力」をつける中学校歴史授業モデル』明治図書, 2011年, pp. 84-93	形式	単元構想

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
欧米諸国では人権思想が広まっていた。アジアに進出した欧米諸国は産業革命により工業化したことで市場や原料をアジアに求めていた。不平等条約が近代日本の大きな課題であった。	
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与 (既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象 (結果)	明治新政府が諸政策を断行することにより近代国家を形成し, その過程の中で庶民の不満や抵抗, 自由民権運動が高まりを見せた。
中核となる問い	「伊藤博文が目指した, 天皇の権限が強い国家」と「山際七司が目指した, 国民の意見を反映できる国家」のどちらを支持するか, 明確な根拠を基に, 互いの意見を交流・検討する。
問いの性質	<input type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと (様子) だったのか」 手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果, どうなったのか」 結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像, 意義を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「自分であったら, どうするのか」 意志決定を求める問い。
習得される知識	複雑な国際状況の中, 伊藤博文は国権を重視し, 山本七司は国民の意見を反映させることを重視した国家づくりを目指した。
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

既習事項を明治新政府や自由民権派への課題として位置づけている。既習知識の批判的な検討をした上での学習展開ではなく, 近代国家の形成や自由民権運動の高揚の要因を複数抽出し, 伊藤が主導した政府 (天皇中心の近代化された中央集権国家), 民権派 (国民の声が活かされるような政策を推し進める国家) のうちどちらを支持するのかを問うことで要因の蓋然性について検討ができて得るものとなっている。しかし, 中央集権か民権かの二者択一を迫っている性格上, 中央集権化への抵抗としての民権要求があったことなど要因相互でどう関連付けられるのか十分な検討ができていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワークNo. 24

単元名	「モノ」「写真」「風刺画」「地図」から見る「日露戦争」の授業	授業者	河原和之
時代	明治	執筆者	河原和之
出典	小原友行, 児玉康弘編著『「思考力・表現力・判断力」をつける中学校歴史授業モデル』明治図書, 2011年, pp.94-103	形式	学習指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	征露丸など, 既知のものを通して興味関心を喚起させようとしている。
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与 (既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象 (結果)	日本がロシアに勝った。	
中核となる問い	日本がロシアに勝った要因5つのうち大切なもの～順に並べ替えよう。	
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと(様子)だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	ロシアに戦争に反対する人たちがいた。日英同盟によりバルチック艦隊が遠回りをすることになり不利な状況になった。陸軍が旅順を占領した。フィンランドなど周辺国家が反乱を起こした。海軍がバルチック艦隊に勝利した。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数	同上
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	ランキングによる確かめを行っている。
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

複数の要因により日露戦争に勝利したことを理解させようとする授業展開である。しかし, フィンランドなど周辺国家の「反乱」について触れられていないことに典型的にあらわれているように, 要因は列記され, 順位づけられる学習にとどまっておき, 相互の関連性や決定的要因(本質的な要因)の導出を図ろうにも根拠が明確でない。根拠となる資料がない中でランキングを強いられることから, 学習者の既有知識は深化していない授業展開にとどまっていると言える。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 25

単元名	両大戦間の日本	授業者	橋本浩
時代	近代（大正～昭和）	執筆者	橋本浩
出典	小原友行，児玉康弘編著『「思考力・判断力・表現力」をつける中学歴史授業モデル』明治図書，2011年，pp. 104-113	形式	学習指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項，既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	授業の位置付け（教材観）において，両大戦間が学習者の印象が弱い時期と見られがちであることを述べている。
既習事項，既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	単元をとおして，「悲惨な第一次世界大戦をしたのに，なぜ再び戦争をしてしまったのか」と考えやすい両大戦間の歴史展開に再考を促す展開を構想している。

分析フレームワーク2 授業で習得される知識，概念

学習対象となる歴史事象（結果）	浜口雄幸内閣の代表的な政策として，金解禁政策，ロンドン海軍軍縮条約があり，そのいずれもがこの内閣の倒壊原因となった。	
中核となる問い	なぜ浜口首相は襲われ，内閣が倒れたのでしょうか。	
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因，背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は，どのように起きたのか」「～は，どんなこと（様子）だったのか」手段・方法，過程，構造，相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果，どうなったのか」結果，影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像，意義を求める問い。
習得される知識	経済の混乱により国内の社会不安が高まった。事態の打開を軍部の過激な行動に期待しようとした。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数	命題の作成過程において，浜口内閣の倒壊要因は複数あることに気付かせようとしている。
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

1920～1930年代の政策から，政党内閣の終焉と軍部の台頭がもたらされたことなど，第二次世界大戦へと向かう複数の要因を理解させ「このような時期であった」と命題の形で捉えなおそうとしている。しかし，本時で言えば，浜口内閣の倒壊要因を直接示す資料はなく，なぜ，金解禁や軍縮条約が倒壊原因となったかについて学習者が理解できたかについて明示されていない。また，最も適切な命題を選ぶ活動はあるものの，要因同士の関係は検討されていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワークNo. 26

単元名	現代の世界と日本① 冷戦と日本	授業者	大内田健志,
時代	昭和	執筆者	庄本恵子
出典	小原友行, 児玉康弘編著『「思考力・表現力・判断力」をつける中学校歴史授業モデル』明治図書, 2011年, pp. 114-123	形式	学習指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与 (既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象 (結果)	冷戦で資本主義と社会主義は対立した。	
中核となる問い	資本主義陣営と社会主義陣営が世界に与えた影響や出来事をまとめ, なぜそのようなことをしたのかを第三世界の立場から答えなさい。	
問いの性質	<input type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は, どのように起きたのか」「～は, どのようなこと(様子)だったのか」手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果, どうなったのか」結果, 影響を求める問い。
	<input checked="" type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像, 意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら, どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	各主義がそれぞれ勢力や考え方を広げようとして争っていた。第三世界はそれに巻き込まれないために両陣営とは距離を置こうとした。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数	第三世界は大国の支配から逃れて独立し, 両方の国から経済援助を受けるため, どちらの陣営にもつななかった。
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数	
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり	
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

資本主義陣営と社会主義陣営が世界に与えた影響や出来事第三世界の立場からまとめ, 関連付けながら冷戦期における国際動向を推論させようとしている。第三世界の動向を独立と経済援助の2点の利害だけで説明しようと試みられていることから獲得した知識の関連付けは図られていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 27

単元名	日本の封建社会の動揺	授業者	
時代	近世 (18~19世紀)	執筆者	山本恵
出典	小関洋治編『新学習指導要領の指導事例集 中学校社会科2 新しい胃歴史的分野の指導事例』明治図書, 1991年, pp. 95-106	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項, 既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項, 既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与 (既有知識の批判的検討)	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識, 概念

学習対象となる歴史事象 (結果)	綿製品の需要の増加をきっかけに, 工場経営者はできるだけ利益をあげようとして大量生産ができる機械を必要とした。また, 原料や資源を安く手に入れるため植民地支配の強化し, 労働者を弱い立場に追い込んだ。
中核となる問い	どうしてイギリスで工業が発達したのか。
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因, 背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は, どのように起きたのか」「～は, どんなこと (様子) だったのか」 手段・方法, 過程, 構造, 相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果, どうなったのか」 結果, 影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像, 意義を求める問い。
<input type="checkbox"/> 「自分であったら, どうするのか」 意志決定を求める問い。	
習得される知識	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 (蒸気機関などの) 機械が発明されたから。工場経営者が力をもってきたから。植民地に綿製品を売り利益を上げたから。石炭と鉄といった資源が豊かだったから。 <input checked="" type="checkbox"/> 複数
要因同士の関係の検討	<input checked="" type="checkbox"/> あり 展開例では外国との貿易の発達と綿製品の輸出, 工場経営者 (資本家) と植民地への綿製品売り込みなどを線でつなぎ, 関連付けられている。 <input type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

イギリスの産業革命の目的として貿易のための市場拡大に焦点を当て, 授業が構想されている。要因の相互関連として工場経営者の利益拡大のための植民地支配の強化, 労働者階級が生まれたことを挙げている。しかし, 歴史事象の関連付けは目的と手段の関係にとどまっており, 相互のものとはなっていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 28

単元名	日本の封建社会の動揺	授業者	
時代	近世（江戸時代）	執筆者	北澤明
出典	小関洋治編『新学習指導要領の指導事例集 中学校社会科2 新しい胃歴史的分野の指導事例』明治図書，1991年，pp. 148-154	形式	指導案

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項，既有知識	
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
既習事項，既有知識の活用と学習の結果	
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

分析フレームワーク2 授業で習得される知識，概念

学習対象となる歴史事象（結果）	千人講騒動（一揆）が発生した。
中核となる問い	飯田藩の財政や農民の生活が苦しくなったのはなぜだろうか。
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/> 「なぜ～は起きたのか」 要因，背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「願いの実現のためにどうして～をしたのか」 学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/> 「どうして～をしたのか」 行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～は，どのように起きたのか」「～は，どんなこと（様子）だったのか」 手段・方法，過程，構造，相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きた結果，どうなったのか」 結果，影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/> 「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」 時代像，意義を求める問い。
<input type="checkbox"/> 「自分であったら，どうするのか」 意志決定を求める問い。	
習得される知識	支出が多く収入が増えなかったことから飯田藩は財政難になった。農民の階層分化による小農層増加が生活の困窮を引き起こした。
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数 藩の財政難と農民の階層分化の両面から一揆が起きたことを説明させようとしている。
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

考察

一揆が起きた要因を武士，農民それぞれの立場から引き出すことを主眼として授業が構想されている。しかし，2つの要因により社会の様子が理解できると考えられており，その関連，本質的な要因については言及されていない。

授業分析フレームワーク

分析フレームワーク No. 29

単元名	東大寺にはなくて普通の寺にあるものは？鎮護国家と律令体制	授業者	
時代	古代（奈良）	執筆者	河原和之
出典	歴史教育者協議会編『明日の授業に使える中学校社会科』大月書店，2013年，pp. 40-41	形式	授業の展開（文書）

分析フレームワーク1

取り上げられた既習事項，既有知識		
学習者の既有知識や既存の認識への言及	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	聖武天皇の熱意や行基の活躍，過酷な農民収奪だけで大仏ができたのではなく，庸調の内容を確認させ，どのように税金を集めたのかを問うことで国司などの地方官僚の役割に気付かせようと試みている。
既習事項，既有知識の活用と学習の結果		
メタ認知の関与（既有知識の批判的検討）	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

分析フレームワーク2 授業で習得される知識，概念

学習対象となる歴史事象（結果）	律令制が整備されたことにより，聖武天皇は大仏をつくることができた。	
中核となる問い	聖徳太子の時代にはつくれなかった巨大な大仏を，なぜ，聖武天皇はつくることができたのでしょうか。	
問いの性質	<input checked="" type="checkbox"/>	「なぜ～は起きたのか」要因，背景を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「願いの実現のためにどうして～をしたのか」学習対象の願いを考えさせる問い。
	<input type="checkbox"/>	「どうして～をしたのか」行為の目的を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～は，どのように起きたのか」「～は，どんなこと（様子）だったのか」手段・方法，過程，構造，相互関係を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きた結果，どうなったのか」結果，影響を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「～が起きたのはどのような時代であったのか」「～が与えた影響や意義は何であったのか」時代像，意義を求める問い。
	<input type="checkbox"/>	「自分であったら，どうするのか」意志決定を求める問い。
習得される知識	奈良時代は，官僚制を全国にわたって実施し，租税収入の確実な確保が実現できた。財源確保により道路整備，駅がつくられたことにより大仏がつけられた。	
抽出される要因	<input type="checkbox"/> 単数 <input checked="" type="checkbox"/> 複数	<ul style="list-style-type: none"> ・官僚制を全国にわたって実施できたこと。 ・道路整備，駅制の実施された。
要因同士の関係の検討	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
習得した知識の他の事象へのあてはめ	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
本質的な要因の認識	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

考察

聖武天皇の熱意や行基の活躍，過酷な農民収奪といった奈良時代への一面的な認識からの脱却を意図した実践であり，奈良大仏が製作できた背景について複数の要因抽出をさせようとしている。駅制の整備により納税が円滑になるなど，要因間の関連について学習できる構想となっている。しかし，要因間の相互作用の導出には至っていない。